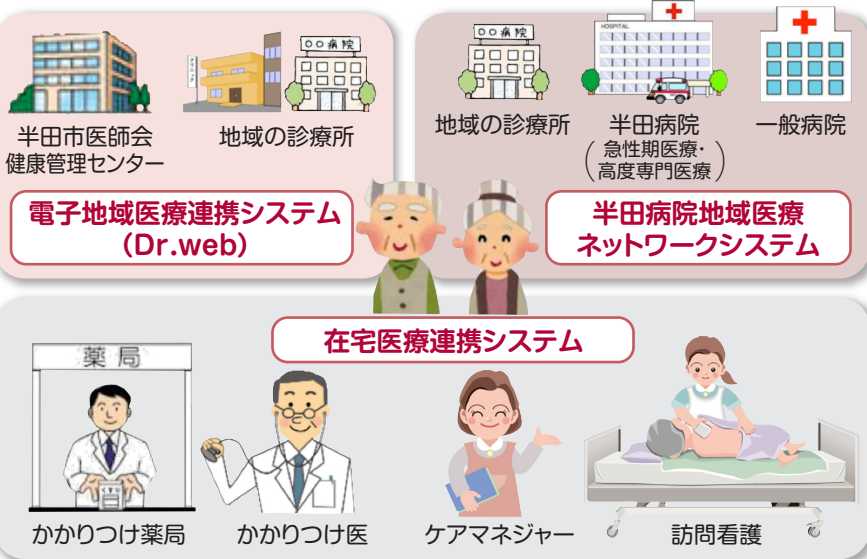


病気にそなえる②

ICTによる医療・介護の連携システム



今冬稼働予定!!

①医療職・介護職間で情報を共有します!!

【在宅医療連携システム】

診療所、かかりつけ薬局、訪問看護ステーション、ケアマネジャーなど医療と介護の専門職間で患者情報を共有するしくみです。ICTネットワークを通じて、訪問時の体調や生活状況の変化を、文字情報や写真、動画、音声等のデータによって、すばやく多職種が共有することで、医療職と介護職がそれぞれに最適な支援を行うとともに、一体的な見守りが可能となります。

②診療所間で情報を共有します!!

【半田市医師会 電子地域医療連携システム“ドクターウェブ”】

市や近隣の130カ所ほどの診療所同士をインターネットでつなぎ、医療情報を共有し診療に役立てています。例えば、半田市医師会健康管理センターの最先端の検査機器によって受けた検査結果は、直ちに診療所に送られ、治療に活かされます。また、地域の診療所や半田病院へのオンラインによる患者紹介も行っています。

4月から稼働中!!

③半田病院と診療所間で情報を共有します!!

【半田病院地域医療ネットワークシステム】

半田病院の診療情報・検査結果・レントゲン画像・処方などの患者情報を地域の診療所などに提供するものです。半田病院での治療・検査内容をかかりつけ医が知ることによって、検査や薬剤の重複を防ぎ、かかりつけ医は多くの患者さんをスムーズに受け入れることができます。将来的には知多半島医療圏の中核病院を結ぶことにより、患者さんにとって最適な医療を受けることが可能になります。



◎ ICTによる医療・介護の連携システムの利点 ◎

- ・ かかりつけ医から急性期病院や高度専門病院へ転院する場合、医療情報の提供によってこれまでの治療を踏まえた適切な医療が提供されます。
- ・ 退院や転院の場合、自宅での療養を支えるための地域医療や介護への移行も速やかに整えられます。
- ・ 患者や利用者の病状や治療について、関係する医療職や介護職が情報を共有することで、地域で安心した医療・介護サービスを受けることができます。

次回は、「病気にそなえる③」です。【問合わせ】高齢介護課 ☎84-0644